

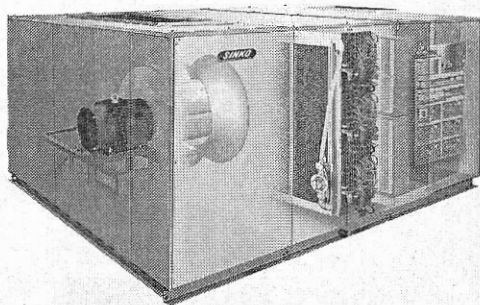
冷媒配管の統合・分割に対応

新晃工業「ヒートポンプ空調機II」を発表

高精度な給気制御を実現

新晃工業（大阪市北区、社長・武田昇三氏）では、ダイキン工業との共同開発による「新型ヒートポンプ

空調機」に次いでこのほど、基本性能をさらに充実したヒートポンプ空調機IIを発表した。



同空調機は、最大八万平方メートルまで幅広くラインアップ。高静圧への対応が可能である。中規模ビルから体育館や工場などの大空間まで幅広いヒートポンプ空調機II

広く対応する。室外機の運転可能範囲は、夏期冷房時マイナス五〜四十三度C（DB）、冬期暖房時マイナス二十〜二十二度C（WB）、猛暑極寒にも対応できる空調設計が可能。設計風量の二〇〜一〇〇%まで広範囲な制御が可能で、低負荷時でも効率の良い空調で省エネに貢献。このほか、①空調機と室

外機をつなぐ配管は、配管実長百六十五メートル、無高低差五十メートルまで自由度の高い配管設計が可能、②個別分散機器に比べ大風量対応が可能なため、設置機器台数が少なく、加湿器やフィルタのメンテナンス作業を集約できる、③負荷に応じた冷媒容量制御により、オーバーシュートやハンチングを抑え、高精度な給気制御を実現、などの特長を備えている。

新晃空調工業を吸収合併

2020年
4月1日

新晃工業は、子会社の新晃空調工業（岡山県津山市、社長・谷口武則氏）を二〇二〇年四月一日、吸収合併する。

合併方式は、新晃工業を存続会社とする吸収合併方式で、新晃空調工業は解散する予定である。新晃空調工業は一九八一年三月二十七日の設立で、事業内容は空調機器、冷却塔および関連製品の製作、建築用資材の製造。